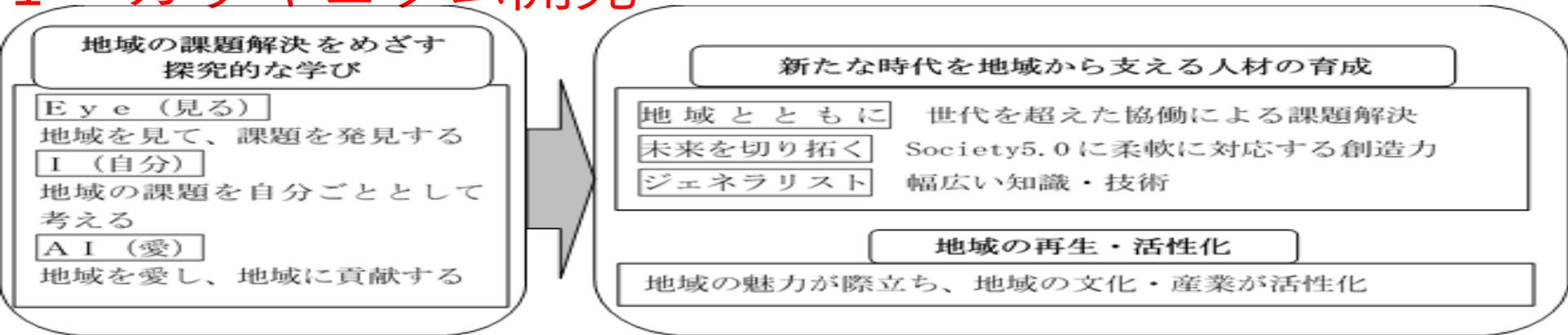


1 カリキュラム開発



ステージ 1

E y e (見る) 地域を見て、課題を発見する

田布施あいレポート

教科横断的な取組

フィールドワークによるレポート制作、コンソーシアムから助言、発表により、**探究的な力**や**問題解決をする力**を身に付けた。

教科横断的な学習を通して、自らの専門学科に関する「**知識・技術**」や、**広い視野**で**物事をみる力**を身に付けた。



フィールドワークによる
地域のレポート制作



コンソーシアムによる
レポートの助言



産業基礎による
各科のローテーション授業



数学科によるRESAS
データの分析授業

ステージ 2

(自分) 地域の課題を自分ごととして考える

地域課題への取組

耕作放棄地の解消

各学科の専門性を生かした地域の問題を自分ごととして捉え、**自己の問題を発見して、研究を実践する力**が身に付いた。生物生産科では、耕作放棄地の有効活用として、牧草の栽培研究に取り組んだ。



都市緑地科によるドローンを利用した耕作放棄地の調査



生物生産科による耕作放棄地での牧草栽培



学科横断的活動

子ども食堂への配食

課題の改善に向けて自身の専門性を生かしつつ、他学科と連携する試行錯誤する中で、「**思考力・判断力・表現力**」が身に付いた。学科間連携として、地域の「子ども食堂」へ配食活動に取り組んだ。



生物生産科による
材料提供



機械制御科による
調理器具提供



食品科学科による
弁当制作



ボランティアによる
弁当配付

ステージ 3

A I (愛) 地域を愛し、地域に貢献する

地域との協働

イベント企画・運営

課題解決に向けた探究的な学びを通じて、地域と自分を愛する地域との連携をテーマとした、**イベント等を企画・運営**する。



生物生産科
ハロウィンイベント



食品科学科
カフェメニュー開発



都市緑地科
防災公園プレゼン



機械制御科
サイクリングマップ

達成状況の検証・分析

研究成果発表会

成果発表会を開催し、外部に向けオンライン配信も行った。今後、コンソーシアム委員会や運営指導委員会から助言を受け、課題解決の達成状況について検証・分析し、コンソーシアムと協働して研究成果をまとめ、次の目標を設定する。



成果発表会の開催



発表会のオンライン配信



カリキュラム開発等専門家
による指導講演

1年生の発表について、
3年生が聴講・質疑

成果の検証

・三菱UFJリサーチコンサルティング（株） 調査
・生徒作成ループブック より

①地域産業の担い手として幅広い知識・技術を有する人材

専門的な知識・技術は身に付いたか？

95.7%

②Society5.0に柔軟に対応できる創造力を有する人材

自分の考えやいろいろな情報をまとめ、相手に伝えることができる？

55.6% (R1) → **72.9%** (R3)

17ポイントup!

③世代を超えて他者と協働して課題を解決できる人材

地域の課題について考え、行動できる？

38.6% (R1) → **71.3%** (R3)

33ポイントup!

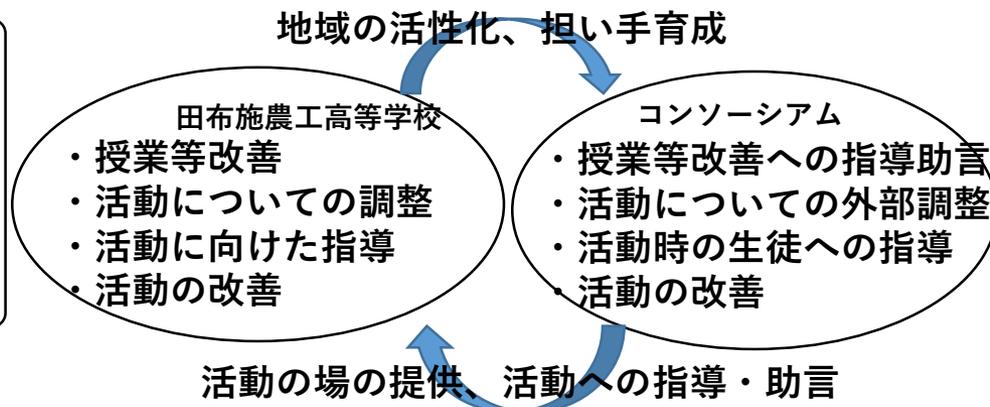
課題

- ・長期休業後の意識・意欲の低下。
- ・生徒個人の意欲等のばらつきがある。

2 コンソーシアムを活用した活動

《本事業で取り組む地域課題》

- ① 地域情報の発信力の強化
- ② 農林水産業の担い手の確保と育成
- ③ 地域コミュニティづくり



① 地域情報の発信力の強化

生徒あい³実行委員会

各科の有志が集い設立され、各学科の情報交換、連携した活動の企画・運営、校内・外部への情報発信、ループブック評価作成などを行った。



生徒実行委員会での情報交換



啓発活動（校内でのポスター掲示）

「田布施View」会議

田布施町総合計画への町民の意向を反映する会議に参加し、これからの活力あるまちづくり計画に携わっていく。



町役場職員と一緒にフレーンストーミング



町役場職員に対する発表

②農林水産業の担い手の確保と育成

担い手の確保



アグリフォーラム

アグリフォーラムは、未来の農業人を育てることを目標に、コンソーシアム委員の協力により、地域で活躍している農業関係者を招き実施している。



1年生
農業法人若手就農者
とのディスカッション



2年生
町おこし協力隊の講演及び
町への体験農園づくりの提案



2年生
山口県立農業大学校
でのインターンシップ



3年生
農業法人経営者との
ディスカッション

担い手の育成



GAP認証

GAPについて学習し、国際水準での食の安全安心と持続可能な農業について科学的な根拠をもとに理解する。

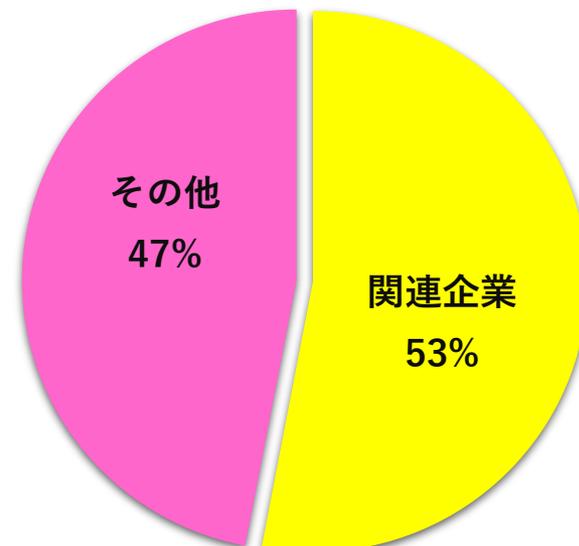


コンソーシアム委員による
GAP講習会



JGAPの認証審査

農業関連学科進路状況(就職)



③地域コミュニティづくり

コンソーシアム委員等 による学校支援

コンソーシアム委員等が積極的な学校教育支援に関わることで、ひとづくりと地域づくりの好循環に繋がっている。



飲食店長による
カフェメニュー開発支援



大学教授による防災公園
デザインづくりの支援



田布施地域交流館マネー
ジャーによる交流館での講演



地域活性化伝道師による
マーケティングの講演



地域おこし協力隊による
特産品開発の支援



農政局による地域の
圃場整備事業について解説



郷土館館長による
田布施町の歴史について支援



大学教授による
地域連携についての講演

成果の検証

- ・コンソーシアム委員アンケート
- ・保護者アンケート

より

この事業で、地域の人材育成や活性化、能力向上につながったと思いますか。

95.0%

(コンソーシアム委員)



お子さんは、実践力・コミュニケーション力が身についたと思いますか？

100%

(保護者)



お子さんは、アイデアを活用する力が身についたと思いますか？

86.7%

(保護者)



課題

- ・協働体制の確立(学校と地域の意見の相違)
- ・地域人材のさらなる育成

3 まとめ

- 農業、工業、普通科の連携による教科横断的活動を実践し、生徒の幅広い知識技術の習得につながった。
- 生徒の中にPDCAサイクルを実践する意識が芽生えたことで、自己の活動を客観的に見られるようになった。
- 自らが考え実践した地域における活動が評価されることで、自己肯定感を養うことにつながった。
- 学校運営指導委員とコンソーシアム委員を兼ねることで評価と協働が一体化した取組となった。

- 継続した連携を行うための校内組織の確立。（自走していける体制作り）
- 個々の生徒の活動における適切な評価を行い、全体の底上げを行う。